

埋蔵文化財の調査が始まる

すべての建物が取り壊されて地面が現われた学校の敷地。ここに職員室があったのだ、ここに二階への階段があったのだ。消え去りし思い出が頭をよぎる間もなく深く掘られた地面が目の前に広がる。新校舎の建設の前に行われる埋蔵文化財の調査が始まったのである。

2012年2月23日、間もなく新しいシステムに沿って月中に行く現5年生のために企画された発掘調査の見学会に同行させていただいた。



古い歴史を秘める京都は街の殆どのところから古の記録が地中に秘められていると言う。東山から鴨川にいたる長い傾斜は先人たちの努力でなだらかな傾斜の土地となったようだ。勿論重機などない時代の話。そんな中、縄文時代の後の弥生時代の痕跡が見つかったとかで驚きである。一枚、一枚、皮をむいていくように地面を丁寧に削り取っていくと古の時代の痕跡が現われる。記録に残る歴史を紐解くまでも無くここ一橋校の跡地は平安後期の天皇・後白河天皇の邸宅



の一部だったといわれている。1169年法皇となり、造寺、造仏を盛んに行い梁塵秘抄なる書、歌を残している。おそらくその中にもこのあたりの風景が読まれたものがあるのではと思う。三十三間堂あたりからこの一橋校の辺りまでが広い敷地で、大きな池があり、その痕跡がみられる。現在、池田町など由来の元になっていて南限だという。お隣の犬谷高校での発掘調査



では沢山の瓦が見つかったとか。瓦の裏面に布のかたが残っている。これは平安時代以前のものだとか、以後は形成のときに消されたという。長い長い歴史を一目で見る事が出来、子供たちの脳裏に深くきざまれたことだろう。古い歴史の上にいる現代人、先人に感謝の気持ちを忘れてはいけないものだ。

子供達と同行して 記録・撮影

一橋校 08 小倉 裕

